

令和元年度食のみやこ鳥取県づくり支援交付金 採択事業一覧

◆一般枠◆

事業主体	採択額	事業概要
	交付金 (千円)	
とっとりご当地麺博覧会実行委員会	1,152	・地域のにぎわいの創出と地域の食文化の再発見を目指し、鳥取県をはじめとした山陰や全国のご当地麺を一堂に会し、山陰初の「ご当地麺博」を開催する。全国的に知名度の高い「B-1グランプリ」とのコラボに加え、「日本海テレビ開局60周年記念イベント」との同時開催により、メディア露出と情報発信力を高める。
29ロードネットワークス実行委員会	790	国道29号線沿いの地域資源である「肉」を活用したウォーキングイベントを開催。2015年から開催しているが、本年は牛・豚・鶏・ジビエの肉フルコースを楽しめるイベントにパワーアップ。麒麟のまち観光局と連携した全国的な情報発信を行う。
6次産業化してみよいや	300	生産者が作った6次産業化商品、農商工連携商品を、自らが情報発信し特産品開発を目指す。販売PR、コラボ商品、新商品発表会
倉吉サクラム実行委員会	163	イタリアの収穫祭(サグラ)をヒントに、県内外の富裕層を対象としたイベントを開催。県中部付近の旬の食材、クラフトビールや地域産ワインをテーマに、倉吉市西町商店街を開催場所とし、地域の活性化につなげる。
鳥取グランピングスタイル	773	三朝町の山間部集落、中津のキャンプ場でグランピングイベントを開催、県内外・インバウンドも含めて集客し、将来的にグランピングキャンプ場としての発展につなげる。 ⇒会場変更: 三朝温泉河川敷で開催
グランピング地域活性化委員会	511	県内で2回のグランピングイベントを開催、鳥取の自然環境・食材・体験コンテンツとグランピングをセットにし、県外の観光客を誘致、鳥取ファンを増やす。
鳥取県果実酒等協議会	532	・会員である県内の果実酒製造事業者の果実酒を参め、関係者および一般客を参集して軽食とともに試飲でき、商談会も兼ねたイベント「ワインセッション鳥取2019」を開催する。 ・果実酒や鳥取の食をPRするスペースを設置し、イベントに合わせて作成するパンフレットを配布して、県内の果実酒を広くPRする。
あぞうの森を五感で楽しむ会	370	安蔵森林公園を会場に、鳥取市、明治谷でとれた農産物・ジビエの販売、飲食、森林体験ができるイベント「鳥取・あぞう 秋の収穫祭」を開催。生産者、大学生も参加して、中山間地の魅力を発掘・発信することで「地域交流拠点」として機能させることを目標とする。
とっとりちゃんぽんネットワーク	735	・地場産プラザわったいなを会場に、ご当地ちゃんぽんの祭典「ワールド・チャンポン・クラシック2020in鳥取」を開催し、鳥取のちゃんぽん文化を広く全国に広める場とする。(県産野菜の積極的な使用を義務化) ・鳥取のちゃんぽん文化について研究を行い、とっとりちゃんぽんマップ「ちゃん本」を作成、県産食材を使ったレシピを掲載 ・イベントを契機にして、飲食店や食品企業とのネットワークづくり、県産食材の消費拡大につながる取り組みとする。

◆特別枠◆

特定非営利活動法人 グリーンツーリズムもちがせ	160	地域に自生しているクロモジを使った商品づくり、八上姫伝説にちなんだ創作料理づくりを行い、地域の名物と言える観光資源に育て、地域の賑わいづくりをすすめる。 ・八上姫御膳のお披露目:(ゆいの宿古民家長谷川邸のオープン日) ・さらに改良を加え、夏休み期間中に完成披露イベントを開催
米子工業高等専門学校 食文化研究同好会	150	ジビエの肉の熟成や保存技術の向上を目指した研究を行う。
ウィム・プランニング・ラボ	250	参加者が地元野菜を持ち寄り、それを入場料として、料理人がその場で調理するという、食育音楽イベント「ギブミーベジタブル@鳥取」を開催。出演者への報酬は集まった野菜でまかなうため、営利目的ではなく、野菜がお金代わりにするという、新しい価値観を生み出す。地元料理人による実演調理で、地元野菜の美味しさの再発見による消費拡大にもつなげる。
日南町食育推進協議会	250	・日南町の食文化を後世に伝えるための冊子を作成、ケーブルテレビや町報などを活用して日南町の食材や食文化の魅力をPRする。 ・日南町の食のイベント「めしフェス」の中で、無料の試食会を開催、冊子の料理をPRするケーブルテレビ番組はDVD化し、今後の普及啓発活動に活用する。
境港ベニズワイガニ料理推進協議会	250	境港が水揚げ量日本一を誇るベニズワイガニの新しい料理を開発し、市内イベントでお披露目する。